

奈弓連だより

通巻 190号

平成 29 年 12 月号

発行 奈良県弓道連盟

会長 西中 正

編集担当 土谷尚敬 野尻賢司

全国地連会長会議の報告と連絡

11月30日に全日本弓道連盟中央道場・講堂にて全国地連会長会議が行われました。その内容について直接、皆様に関連するところを抜粋してお伝えします。

1. 弓道界におけるコンプライアンスの徹底について

先般の大相撲における暴力問題については、報道等により既にご存知のことと存じます。弓道界といたしましても、改めてコンプライアンスの徹底にあたり、以下の根絶に取り組んでください。

- ・反社会的勢力との関与
- ・違反行為（八百長、賭博）への関与
- ・違法薬物（ドーピング含む）の摂取
- ・暴力行為
- ・各種ハラスメント
- ・差別問題
- ・その他、スポーツの価値を貶める行為

2. 冬期間の行事における寒冷対策について

冬期間の寒冷対策について、全日本弓道連盟 医・科学委員会において検討を重ねられた結果、冬期間における大会・審査会・講習会開催時において和服を着用する場合は、和服の下に筒袖または稽古着の着用を推奨することが決定されました。

【背景】

日本国内全体で高齢化が進んでいるなか、全日本弓道連盟においても年々登録人口の高齢化が進んでおり、高齢者に多い疾患など事故発生の予防が急務となり、特に高齢者は年齢と共に感覚が鈍くなり「急性心筋梗塞」「脳出血」「脳梗塞」などの予防は喫緊の課題と考えます。

【目的】

- ・冬期間（11月～3月）に弓道場で開催される行事での矢渡・代表演武（模範演武）において「心臓疾患」「脳血管疾患」による急病発生の防止。
- ・「根性」「精神力」「自己責任」などの誤った認識による上記事故の防止。
- ・生涯スポーツとしての、安全性向上と内外に対するアピール。

【内容】

- ・冬期間（11月～3月）寒い時期の弓道場では、「和服（襦袢）下に筒袖（色は不問）または稽古着等の着用」を推奨する。

- ・高段者の先生方による、演武においても着用を促す。
- ・都道府県加盟団体（各支部）に対して着用を推奨する。
- ・各種行事への参加申込者（大会競技役員、審査委員、講師等）に対し「実施要項」「関係資料（大会出場の手引・競技役員必携、審査進行予定、講習会事務連絡）」に注意喚起として追記し、「開会式」での注意事項として説明の上、事故発生の防止に努める。
- ・年齢や称号段位に係わらず、冬期間の和服練習時において着用を促す。

3. 4月24日～25日に世界弓道大会(全日本弓道連盟中央道場)が行われます

団体競技は日本代表1チームを含む24カ国の代表チームで競われますが、個人競技については初段以上の人はオープン参加できます。

【重要】日本国内選手の参加申込について

本大会の個人競技には、国際弓道連盟加盟国から多数の参加が見込まれます。日本国内の参加者の申込みにあたっては、大会の安全・円滑な運営のため、以下により取り計られます。

- (1) 有段者の部、称号受有者の部ともオープン参加とします。ただし有段者の部は初段以上とします。
- (2) 参加は一般、大学生、高校生、中学生のいずれの区分も制限を設けません。
- (3) 日本国内の参加申込が多数の場合は、以下により絞り込みを行います。
 - ① 申込者多数の場合はメ切後、抽選により参加者を決定します。
 - ② 代表選手選考会に出場した選手が参加を申し込む場合は抽選によらず優先的に出場できることとします。
- (4) 参加申込みは、所属する都道府県弓道連盟（地連）へ申請すること。
- (5) 参加選手は、万が一の怪我・疾病に備え、健康保険証を携行すること。

県内参加締め切りは2月10日、詳しい実施要項は事務局から案内します。

奈良県弓道連盟会長 西中 正

奈良女子弓道大会

白熱の弐段以下の射詰め競射 11 本まで続く

11月23日、ならでん（奈良市）弓道場で第35回奈良女子弓道大会が開催されました。大会には中学、高校、大学、一般の計92名が参加。「優雅のうちに、容姿凛然たること」を目指した熱戦が繰り広げられました。個人弐段以下の部では、優勝決定戦の射詰め競射が11本まで続き、皆が見守るなか宮本選手が11本目を的中し優勝が決定しました。ここまで白熱したのは初めてのことです。結果は次の通りです。

団体の部

- 1位 天理大（岩下晴奈、宮本佑香、磯山ほのか）
2位 奈良北高（米田真由、山田詩織、足立優香）
3位 橿原（林 秀子、前川なつき、東中千佳）

個人弐段以下の部

- 1位 宮本佑香（天理大） 2位 足立優香（奈良北高）
3位 岩下晴奈（天理大）

個人参段以上の部

- 1位 土谷ひろみ（奈良） 2位 猪原句子（奈良）
3位 林秀子（橿原）



秋晴れの下、熱戦を繰り広げる選手達



体の部で入賞した 前列 天理大、後列 左から
橿原、奈良北高の選手達

（奈良支部 高倉美香）

昇格おめでとうございます

12月の全日本弓道連盟中央審査会において次の皆さんがそれぞれ昇格されました。

教士 前角 博（橿原）
東京 特別臨時中央審査会（12月17日）

錬士 平田和豊（錬弓会）
平田ゆり子（錬弓会）
田辺 近畿地区臨時中央審査会（12月2日）

錬士 加藤順三（奈良）
東京 特別臨時中央審査会（12月16日）

おめでとうございます。

（事務局）

奈良県臨時地連審査会

級位 3名、初段 8名、弐段 9名、参 5名、 四段 5名が合格

12月10日に橿原公苑弓道場において第272奈良県臨時地連審査会が開催されました。

合格された皆様、おめでとうございます。

[審査結果]

級位 申請者 3名 合格者 3名
(1級 2名 2級 1名)

初段 申請者 19名 合格者 8名

弐段 申請者 12名 合格者 9名

参段 申請者 13名 合格者 5名

四段 申請者 15名 合格者 5名

なお四段に合格された人は次の通りです。

中川亨（奈良）
濱田耕助（奈良大）
腰越和雄（錬弓会）
池本真須美（奈良）
山本瑤子（郡山）

（審査部 平木一史）

私の弓道人生：国体選手として、国体監督として

奈良県弓道連盟顧問 教士七段 竹村邦夫

長崎国体・近的競技で優勝、初めての12射皆中

今、私の弓道人生を振り返ってみますと国民体育大会に刺激を受けて育てられたと思います。初参加は昭和36年秋田国体でした。高校を卒業した時でしたので18歳。弓道の何も解らない少年期です。その時、近的射場で決勝トーナメントが開かれており、兵庫県の選手たちが進出されていました。澤村先生、中井先生、工藤先生で12射12中の成績を見せつけられ、初めての経験で私にとっては現実の世界と理解できない出来事でした。翌年、岡山国体では愛知県の一般男子の選手たちが近的・遠的両方優勝され、私には信じられないことが目の前で繰り広げられ、全国にはすごい選手達がいるものだと感心以上のものがありました。

わが奈良県チームはどうか？ 私が18歳、19歳の歳でしたし、あとの選手二人は歳の離れた人達で、さらに監督さんはお父さん達でした。国体前の練習もありませんし、国体本番前の練習もほとんどありません。国体というよりも旅行気分の参加でした。これはあかん！！何とかならないものかと思いつけていました。

数年後、昭和41年大分国体でやっと若手選手3人、私、高木選手、井倉選手で参加することができ、監督はお父さんタイプでしたが私たち3人で事前練習もしましたし、本番前の練習もできて運よく遠的で優勝することができ、やった！！と感動しました。

さらに昭和44年長崎国体で近的優勝することができました。長崎国体の県代表に選ばれたのは、27歳の私、26歳の高木選手、天理大学OBの29歳の川合選手で、その頃としては全国的に見て若手が揃っているチームと言えます。その頃榎原弓道場が焼失し、天理大学の弓道場をお借りして3人で頑張ることができたと思います。また決勝戦で、今まで経験しなかった12射皆中という快挙もなし遂げることができました。



若かりし頃の筆者の射影

奈良国体では女子チームは近的・遠的で優勝

その数年後に、伊藤登会長から「竹村君、高木君、監督になってほしい」と依頼され、私の監督時代がスタートすることになりました。私のこだわりとして、選手生活の経験から教えるよりも、私は選手達と同じことをやる監督になろうと決めました。選手と同じ矢数の練習と選手に負けないの中率を頭の中に入れてながら監督生活を続けました。「監督が胡坐をかく」「腕組みをする」といった姿勢では監督としての自分を許すことができません。選手たちと常に苦楽を共にして、心が通じ合う、お互いが信頼できる仲間とならなければならないと思っていたのです。

お陰様で、選手たちは私を信頼してくれ、苦しい練習に不平不満を言わず、本番で予想以上の力を発揮してくれました。昭和52年開催の青森国体で米田定雄、米田勝司、高木選手で構成される男子チームは近的優勝、遠的2位を達成。昭和56年開催の滋賀国体で松井、神所、秋山選手で構成される女子チームは遠的優勝を達成。昭和59年開催の奈良国体では前田(旧姓 今里)、奥戸(旧姓 待野)、小牧(旧姓 塚本)選手で構成される女子チームは遠的・近的共、優勝と素晴らしい成績を収めることができました。

健康を維持し、若い人に負けない弓を引きたい

監督を卒業し、仕事も卒業。60歳を過ぎて今まで練習を続けていた大阪の道場とも別れを告げ奈良県弓道教室(錬弓会)を新司先生と共に開き、また奈良教育大学の指導者として現在に至っています。さらに、私のこだわりとして大学生や教室の生徒さんに負けない練習をしたいという思いは今日も消えていません。

私の体験談を書かせていただきましたが、弓道に出会って、「弓」に教えられ、身についたことは「前向きに生きる積極人間になれた」ということが一番だったと思います。

定年退職して、暇ができましたので老後は健康が第1と考え、金剛山に1年に250回登るという目標を立てています。登山口から金剛山頂上まで片道5kmの距離、平均すると週4回登ります。原則として妻、そして愛犬みらくと一緒に登ることが楽しみです。金剛登山は現在2770回でこれから病気がなければ来年10月末に3000回達成できる予定です。そして下山して毎日巻藁練習を20射前後を引き続けることに挑戦しています。

弓道の的中率は現在5割前後ですが、もう少し上達しないものか思案中です。これからも自分には負けない竹村でありたいと思って、頑張り続けます。

奈良県大学選手権大会

団体は男子・女子共に天理大学が優勝

11月26日(日) 橿原公苑弓道場にて、第30回奈良県大学選手権大会が畿央大学主幹で開催されました。西中会長の「生涯楽しめる弓道です。学生時代には基礎を大切に、将来へつないでください」との挨拶を受け、男子43名、女子50名の競技会となりました。結果は次のとおり。

男子団体の部: 24射での的中数による

- 1位 天理大学 A (宮脇・中尾・上野) 22中
 - 2位 天理大学 B (西浦・谷原・山崎) 14中
 - 3位 奈良大学 A (三浦・松崎・齋藤) 14中
- 2, 3位は3人による一手競射により決定。

女子団体の部: 24射での的中数による

- 1位 天理大学 A (宮本・遠近・岩下) 18中
- 2位 天理大学 B (伊藤・磯江・荒井) 17中
- 3位 奈良教育大 A (水谷・古田・西村) 12中

男子個人の部: 8射5中で11名が予選通過

- 1位 西浦 臣 (天理大学) 8中
 - 2位 上野 椋平 (天理大学) 7中
 - 3位 中尾 信次郎 (天理大学) 7中
- 2位、3位は遠近による。

女子個人の部: 8射5中で6名が予選通過

- 1位 辻さやか (天理大学) 8中
- 2位 伊藤 ゆり (天理大学) 7中
- 3位 西村 由梨香 (奈良教育大) 3中

講評では西中会長から「決勝へ残る人ほど目線が動かない」とご指導いただきました。

主幹校を務めての感想

畿央大学は、主幹校を務めさせていただくこと自体が初めてで、本当に大会の運営ができるのかどうか、とても不安でした。しかし、昨年度の主幹校である奈良教育大学が作ってくださった引継ぎ資料を参考にし、先生方にご指導をいただき、無事に大会を終えることができて本当に良かったです。

今回、運営側の立場になってみて、貴重な経験をさせていただきました。特に、矢渡しを任せてもらったことは、とても良い経験でした。三人で動きを合わせることは大変でしたが、矢渡しが終わった後は達成感を感じることができました。その一方で、反省点も多くありました。例えば、郵送費が高つくことから、今回は連絡をメール中心に行うようにしたのですが、そのメールが届いていない大学があり、大変混乱させてしまいました。確実に連絡をとるならば、連絡物は郵送の方が良いのではないかと感じました。後になりましたが、今回の運営に協力してくださった他大学の方々、先生方にお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

(畿央大学 武市夏奈)

橿原市弓道協会合宿研修会

学び、そして会員同士コミュニケーションを深める

橿原市弓道協会では、毎年秋に県外の弓道場を利用した一泊二日の合宿研修会を行っています。この合宿研修会は二日間缶詰で、また広い道場をお借りして研修会を行うことにより、普段の研修会では出来ない射礼の繰り返し研修等を行うと共にその年に昇段・昇格または活躍された方に講話を聴き、更には同宿することでの夜間の深いコミュニケーション・意見交換を行うことを目的として実施しています。今年も11月4・5日に三重県津市に本年10月1日オープンした津市産業・スポーツセンター内の三重武道館弓道場にて実施しました。

今年は例年の射礼研修・射技研修の他、夕食後には阪中会長がご本人の研究や指導されている大学での講話に使われた資料(日本弓道の特徴、手の内、筋肉の働き)を用い、会員向けに講話をされると共に昼間に撮影した全会員の手の内のビデオを基に指導をされました。翌日には前夜の講話を基に「手の内」と「筋肉の働き」について、モデルを利用した研修も実施しました。

更に競技会でのお手伝いの向上をめざし、射詰競技・遠近競射の研修も実施しましたが、進行に関してはとても県連競技会のお手伝いをできるレベルではなく、今後の課題となりました。

今年の合宿には協会会員で米国人のジュリーさんや県連とスペイン弓道連盟との親交にて、繋がりできた東京在住のスペイン人トニさんとアイノアさんも参加し、国際色豊かな合宿となりました。



完成したばかりの三重武道館弓道場で実施された橿原市弓道協会合宿研修会。(橿原支部 衛藤博史)

編 | 集 | 後 | 記

全国地連会長会議での決定が西中会長から伝えられました。全日本弓道連盟が変わろうとしていることを実感しました。特に、寒い時期の弓道場で「筒袖または稽古着等の着用」を推奨するとの文章を見たときは、以前から審査でも筒袖を後ろめたい気分を着用していた私としては個人的にもホッとしました。

編集担当 野尻賢司

--	--